

教科等名：生活単元学習

グループ：小学部 I コース高学年ブロック  
生活単元学習グループ

---

事例報告者：教員 D



## 2 事例研究の経過

①実態把握

②授業実践

③学習の様子

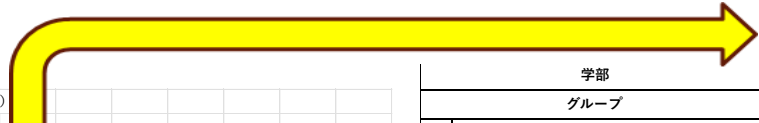
④考察、授業改善

# 実態把握① 1学期

指導内容及び目標の段階一覧 (R7 2学期)

教科 (生活単元学習・理科・社会)

指導者	コース	IIコース				Iコース												
		学部					小低		小中		小高		中			高		
		グループ	小A (全体)	小A (小3)	中A	高A	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1G	2G	3G	1G	2G	生単
CT 免許 専科 (理・社)		<b>非公開</b>																
ST数		4	1	2	2	6	3	4	5	4	2	2			2	3	3	
児生数		5	2	3	3	11	8	9	11	11	6	8			13	8	9	
児童生徒	国語の段階	集団の上位	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	小2	小2	小2	小3	中1		中2	中2	小3
	集団の下位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	中2		小3	小3	小2
数学の段階	集団の上位	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	小2	小2	小3	小3	中1		中2	中2	小3	
	集団の下位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	中2		小3	小3	小2	
教科	生活	社会	理科															
単元1	【基本的習慣】	目標の段階 (上位)	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	小2	小3					小3	
単元2	【安全】	【地域の安全】	目標の段階 (上位)	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	小2	中1				小3	
単元3	【日課・予定】	目標の段階 (上位)	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	小2	小3	小3				小3	
単元4	【遊び】	目標の段階	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	小2	小2	小3				小3	
単元5	【人との関わり】	目標の段階 (上位)	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	小2	小2	小3				小3	
単元6	【役割】	目標の段階	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2				小3	
単元7	【手伝い・仕事】	目標の段階 (上位)	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	小2	小2	小3				小3	
単元8	【金銭の扱い】	目標の段階	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	小2	小2				小3	
単元9	【きまり】	【社会参加ときまり】	目標の段階 (上位)	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	小2				小3	
単元10	【公共施設と制度】	【公共施設と制度】	目標の段階	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	中1				小3	
単元11	【生命・自然】	【生命】	目標の段階 (上位)	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	小2	小2	中1	中1	高1	高1	小3
単元12	【地球・自然】	【地球・自然】	目標の段階		小1	小1									中2	高1		
単元13	【ものの仕組みと動き】	【物質・エネルギー】	目標の段階 (上位)	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	中1	中1		小3	
単元14	【産業と生活】	【産業と生活】	目標の段階		小1	小1												
単元15	【我が国の地理や歴史】	【我が国の地理や歴史】	目標の段階 (上位)		小1	小1												
単元16	【外国の様子】	【外国の様子】	目標の段階 (上位)		小1	小1												



指導者	学部		小高		
	グループ	5年	6年		
CT 免許 専科 (理・社)		<b>非公開</b>			
ST数		4	2		
児生数		11	6		
児童生徒	国語の段階	集団の上位	小2	小3	
	集団の下位	小1	小1		
数学の段階	集団の上位	小3	小3		
	集団の下位	小1	小1		
教科	生活	社会	理科		
単元1	【基本的習慣】	目標の段階 (上位)	小2	小3	
単元2	【安全】	【地域の安全】	目標の段階 (上位)	小2	小2
単元3	【日課・予定】	目標の段階 (上位)	小3	小3	
単元4	【遊び】	目標の段階	小2	小3	
単元5	【人との関わり】	目標の段階 (上位)	小2	小3	
単元6	【役割】	目標の段階	小2	小2	
単元7	【手伝い・仕事】	目標の段階 (上位)	小2	小3	
単元8	【金銭の扱い】	目標の段階	小2	小2	
単元9	【きまり】	【社会参加ときまり】	目標の段階 (上位)	小2	小2
単元10	【公共施設と制度】	【公共施設と制度】	目標の段階	小1	小2
単元11	【生命・自然】	【生命】	目標の段階 (上位)	小2	小2
単元12	【地球・自然】	【地球・自然】	目標の段階		
単元13	【ものの仕組みと動き】	【物質・エネルギー】	目標の段階 (上位)	小2	小2
単元14	【産業と生活】	【産業と生活】	目標の段階		
単元15	【我が国の地理や歴史】	【我が国の地理や歴史】	目標の段階 (上位)		
単元16	【外国の様子】	【外国の様子】	目標の段階 (上位)		

# 実態把握① 2、3学期

指導内容及び目標の段階一覧 (R7 2学期)

教科 (生活単元学習・理科・社会)

指導者	コース	IIコース				Iコース											
		小A (全体)	小A (小3)	中A	高A	小低		小中		小高		中			高		
						1年	2年	3年	4年	5年	6年	1G	2G	3G	1G	2G	生単
児童生徒	CT 免許 専科(理・社)	非公開															
	ST数	4	1	2	2	6	3	4	5	4	2	2			2	3	3
	児生数	5	2	3	3	11	8	9	11	11	6	8			13	8	9
	国語の 段階	集団の上位	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	小2	小2	小3	中1		中2	中2	小3
		集団の下位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2		小3	小3	小2
数学の 段階	集団の上位	小1	小1	小1	小1	小1	小2	小2	小2	小3	小3	中1		中2	中2	小3	
	集団の下位	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小1	小2		小3	小3	小2	
教科	生活	社会	理科														
単元1	【基本的習慣】	目標の段階(上位)															
単元2	【安全】	【地域の安全】	目標の段階(上位)														
単元3	【日課・予定】	目標の段階(上位)															
単元4	【遊び】	目標の段階															
単元5	【人との関わり】	目標の段階(上位)															
単元6	【役割】	目標の段階															
単元7	【手伝い・仕事】	目標の段階(上位)															
単元8	【金銭の扱い】	目標の段階															
単元9	【きまり】	【社会参加ときまり】	目標の段階(上位)														
単元10	【社会の仕組みと公共施設】	【公共施設と制度】	目標の段階														
単元11	【生命・自然】	【生命】	目標の段階(上位)														
単元12	【地球・自然】	目標の段階															
単元13	【もの仕組みと動き】	【物質・エネルギー】	目標の段階(上位)														
単元14	【産業と生活】	目標の段階															
単元15	【我が国の地理や歴史】	目標の段階(上位)															
単元16	【外国の様子】	目標の段階(上位)															



指導者	学部		小高	
	グループ		5年	6年
児童生徒	CT 免許 専科(理・社)		非公開	
	ST数		4	2
	児生数		11	6
国語の 段階	集団の上位		小2	小3
	集団の下位		小1	小1
数学の 段階	集団の上位		小3	小3
	集団の下位		小1	小1
教科	生活	社会	理科	
単元1	【基本的習慣】	目標の段階(上位)		小2 小3
単元2	【安全】	【地域の安全】	目標の段階(上位)	
単元3	【日課・予定】	目標の段階(上位)		小3 小3
単元4	【遊び】	目標の段階		小2 小3
単元5	【人との関わり】	目標の段階(上位)		小2 小3
単元6	【役割】	目標の段階		小2 小2
単元7	【手伝い・仕事】	目標の段階(上位)		小2 小3
単元8	【金銭の扱い】	目標の段階		小2 小2
単元9	【きまり】	【社会参加ときまり】	目標の段階(上位)	
単元10	【社会の仕組みと公共施設】	【公共施設と制度】	目標の段階	
単元11	【生命・自然】	【生命】	目標の段階(上位)	
単元12	【地球・自然】	目標の段階		小2 小2
単元13	【もの仕組みと動き】	【物質・エネルギー】	目標の段階(上位)	
単元14	【産業と生活】	目標の段階		小2 小2
単元15	【我が国の地理や歴史】	目標の段階(上位)		
単元16	【外国の様子】	目標の段階(上位)		

## 実態把握②

### 【グループの児童の様子】

- ・ 17名の児童がおり、自分の気持ちや考えを周囲に伝えることができる児童から発語がない児童まで実態差が大きい。
- ・ どの児童も、環境や心理面が整っている状況であれば、簡単な指示を理解しその通りに行動することができる。
- ・ 発語の難しい児童も、絞った選択肢の中でイラストを選択し、意思を伝えることができる。
- ・ 決まった位置(左右や上下)の方を指差している可能性のある児童もいる。

# 授業実践

【教科名】 生活単元学習

【単元名】 劇遊び『にじいろのさかな』

【単元設定の理由】

## 1 単元観

- (1) 自分の役割を理解し、割り当てられた役割に取り組みようとする力
- (2) セリフやジェスチャーで表現しようとする力

## 2 指導観

- (1) 絵本等で劇の内容を理解しやすいように読み聞かせを行う。役割ごとにチームで分かれて場面練習を行う。題材となるテーマや、自分の役割等について理解できているか確認できるようにする。
- (2) イラストを用いて、動きのイメージがしやすいようにする。

## 【学習指導要領上の段階】 小学部 2 段階

### 【単元の目標】

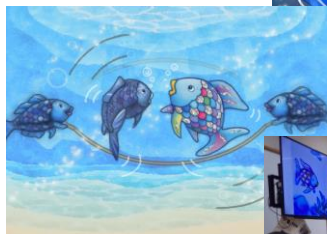
知	物語の大まかな流れを理解し、友達や教師とのやり取りを通して言葉による表現に親しみ、自分の役割を理解することができる。
思	身振りや簡単な台詞などで自分の役を表現することができる。
学	友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わいながら、劇遊びに意欲的に取り組もうとしている。

### 実践①

## 【本時の内容】 リボンを用いたペアダンス

### 【本時の目標】

知	ふじざくら祭で『にじいろのさかな』の劇に取り組むことが分かる。
思	声掛けに合わせて布を小さく振ったり大きく振ったりすることができる。
学	友達と協力することを意識し、布を持ち続け、ダンスを踊ろうとしている。



### ・ 学習の様子について

#### \* 教材

・ 葉月先生の手作り絵本

『にじいろのさかな ふじざくらver.』

・ 振り返り確認用パウポ印刷

#### \* 手立て

・ 絵本の読み聞かせを行い、劇の大まかな内容や登場人物とその役割が分かりやすいようにする。

ことしの ふじざくらさいは？

きんぎょがにげた



にじいろのさかな

～ちがっていても、それもいいね～



ももたろう

～レッツゴー！ゆうきをだして～



・ 『にじいろのさかな』を演じることや本時で学習したことを振り返り、二択や三択で指さして選択して確認を行う。

きょうがんばったのは？



①りぼんだんす



②なわとび

### ①成果

- ・絵本の読み聞かせを行うことで、どのような内容の劇を行うか理解しやすく、劇の大まかな流れや役割を明確に示すことができた。
- ・選択肢を設けて提示し、確認を行うことで、本時の目標が抑えられているかどうかや、児童それぞれの理解度を測ることができた。

### ②課題

- ・左右で選ぶ方を決めている児童がいるように感じる。左右上下を入れ替えられるようにする必要があった。

議題：＜教科の力＞  
選択肢提示の工夫

メンバー（生活単元グループ）  
教員A、他8名

## 良いところ

### 教材

机上ではなく、体で大きい小さいを実感できるのがよい。

イラストやリボンなど、児童の目を引く教材が使われている。

イラストや矢印を提示して布の動かし方を分かりやすく示したのがよかった。

イラストを使って分かりやすく選択肢に言葉とイラストで提示しているので選びやすい。

ダンスの映像を見ることで、ダンスのイメージがもちやすい

AIのイラストがわかりやすい。

### 指導の工夫

毎回授業前に今まで行ってきたことや劇の内容について確認をしているところ

本番同様に読み聞かせをする教員が一緒なのがよい

絵本のどの場面を練習するのか分かりやすく伝えていたので、児童が見通しをもって取り組んでいた。

絵本をふじざくらバージョンにしていることで、内容を捉えやすい。

1チームずつ前に出て発表することで、友達の様子を見ることができてよい

### 授業のまとめ方

最後のふりかえり活動で、今日やったことを二択で選ばせたのが学習を確実に押さえるという点で良かった。

## 課題等

児童に分かりやすい工夫とは

最後の確認は、児童の実態にもよるが選択肢が別々に印刷されているほうがよい。

教師と一緒に動いて、動きを確認すると、より分かりやすい。

課題解決のために

- 基本の位置を明確に置く（どのように動くか分かりやすい）
- 向きを統一させて提示  
⇒各教科と横断的な指導

### 生単として...?

生単と言えど音楽に寄り過ぎている気もする

絵本の読み手は子どもの前で読むとよい。ただ、話を聞くのではなく、読み手の表情等を読みとるのも学習の1つ。

実態差があるが、段階2の子たちとして三択は多い？

実態に合わせて取り入れ、可能である



### ・ 学習の様子について

#### \* 教材

- ・ 大/小の大きさに布を波立てるイラスト
- ・ 矢印で前後を表すイラスト



#### \* 手立て

- ・ 布を振る際に、イラストを提示し、どのような動きを行うか視覚的に分かりやすいように提示した。



### ①成果

- ・イラストを意識し、見て動きを変えようとする児童もいた。
- ・ふじざくら祭本番では、口頭での指示が難しいため、補助手段として、イラストは有効であると感じた。

### ②課題

- ・現段階では、イラストのみでは注目させることは難しいので、笛等の音の出るものを用いて、指示を出せるようにすると良い。
- ・大きく/小さく等、表現が抽象的で分かりにくい児童もいるか？と感じた。

議題：＜言語能力＞  
効果的な指示の出し方  
抽象的な概念（大小など）を分かりやすく伝えるには

メンバー（生活単元グループ）  
教員A、他8名

## 良いところ

イラストと言葉（大きい、小さい）を一致させるのが良い。

## 課題等

大小、前後ろ  
を伝えるには...

「前」と「後ろ」の矢印の提示は別々の紙の方が良かったかも。

時間がなかったが、一度教師とペアでやってみて、「大きい」「小さい」を体感させられると良かったかも。

大きな小さな波を再現すること、イメージすることが難しい場合、児童の体験談を引き出せないか

教師の示範の際にもイラストを使って大小のイメージをもたせるとよい。

大きい小さいは手で触って体験することで分かりやすいが、触れられないものはプロジェクターなど映像などで確認してはどうか

課題解決のために

- 大きい・小さい⇒大きく（小さく）動かす、具体的な動き（どんなふうを言葉も一緒に）
- 基本の位置を明確に置く
- 向きを統一させて提示
- 各教科と横断的な指導（縄跳びの大波小波はどうか）

## 【今後の授業実践に向けて 納得解 最適解】

- 絵本や物語は子供の感情や複雑な状況を理解するために役立つ。
- イラストや図にして提示することで、目に見えない抽象的な概念を「見える化」することが有効。
- 動きを教師と一緒に行う。教師は「大きい・小さい」「前・後ろ」などの言葉を言いながら動くようにする。

### 【教科】

#### ①成果

- ・引き続き配役発表等を行う際にも絵本を読んだことで、自分の役をイメージしやすかったように感じる。
- ・各場面ごとに分かれる際に自分がどの場面に登場するかの確認を毎回行ったところ、正しく手を挙げられる児童が多くなった。
- ・自分以外の同じグループの友達に挙手を促す児童もおり、活動を繰り返し行う中で定着していったように感じる。

#### ②課題

- ・提示の順番や位置を変えた所で、同じ位置のものを選んでしまう児童はどのような学習を行うと良いか？

## 議題

提示の順番や位置を変えた所で、同じ位置のものを選んでしまう児童はどのような学習を行うと良いか

メンバー（生活単元グループ）

教員A、他8名

## 良いところ

### 言語理解

言葉と体感が結びつく経験をすることで、いろいろなことを理解していく。

選んだものがどうなるかの意味付けをして確認するとよいのでは。

選択肢を教えるのは意思決定支援の第一歩。「NO」を伝える力を育てることにつながる。

### 教材の工夫

選択肢の位置を変えたりして、児童に考えさせる工夫をしている。

イラストを用いたり、背景の色を変えて選択肢を分かりやすくしている。

### 評価

選択するというだけで、学んだことの復習にもなるし評価がしやすい。

小学部で友達の様子を見て、選ぶということを理解する児童もいるので、授業の中に意識的に取り組んでいく。

## 課題等

### 実態把握

本児が絶対的に分かる発問で実態把握をする

イラストやカード、ジェスチャー等の理解が熟・・・？

国算に立ち返って実態把握してみる 例  
正中線を超えられるか、目と手の協応

選んだことが何につながっているか先の見通しが持てない。不安。安心する聞き手側を選ぶ

### 日常生活との関連性

自分で選んでいるという実感が得られるとよいのでは（選ばされているという感覚でないか）

まずは選んだことを受け入れる。それから日常的に選択することを学習していき、児童にとって選んだことにより何かいいことがあるとか（おかわりがもらえるとか）気付いてもらえれば少しずつ選べるようになるのか・・・？

それを選べば得か損かを明確にする。人間の本質を生かす形で「選択行動」を教えていく

右利きであれば右側に快の感情やポジティブなイメージを結び付けやすい傾向にある。日常的に様子を観察。

日常生活の場面を使って繰り返し指導することで定着する

選んだ方で、よい経験をすることを繰り返す

議題

メンバー（生活単元グループ）

教員A、他8名

良いところ

指導の手立て

課題等

発問の仕方

相手から出されたカードをみても何を求められているか分からない。

選ぶ目的、表現した意欲が本人にとってあまりもてない内容なのかも

「選ぶ」意味が分からない場合、直前の児童が選んだものを選択する児童もいる。指名する順番を変えてみてもいいのでは

動詞は揃えて提示。理解できたら動詞を変える。

選んだ方を言葉通りにする。

発問の意図を分かりやすくする

指導の手立て

まず指差す、またはカードを渡す基本的な指導を丁寧に行う

平易な質問に対する選択学習を多く行い、選ぶことに慣れさせる

集団授業では難しいので、国算の時間に「選択」の課題を行う

選択肢は「すき・きらい」でなく「いる・いない」から指導する

カードだけで分からないければ、実物を上に乗せて理解を促す

位置ではなく内容で選ぶ学習を個別学習の時間に取り組む。

カードを使ったやり取りの学習を基礎的なものから行う。

教材の工夫

選んだという実感がもてる提示方法  
顔写真や名前カードを貼るなど

二者択一の絵カードを用意する。一つ大好きなもの、もう一つは望まないもので提示。  
○や△、アルファベットなど分かるものを併用して区別できるとよい

### 【言語】

#### ①成果

・大きい/小さいを教師とペアで一度確認を行ったところ、かなり掴めた児童がいた。

→その児童が他児童とペアになってその後繰り返し取り組むことでペアの児童も少しずつ上達し、合わせて踊れるようになっていった。

・イラストを用いたのは練習の初め数回で、教師とペアで取り組む活動を入れたことで大小/前後の動きが掴めたので必要なくなった。

・はじめは笛に合わせて取り組んだが、次第に音楽のタイミングに合わせて振り付けを変えられるようになった。

#### ②課題

・前回の研究時に取り上げたリボンのダンスでの目標↓においては達成できた。

知	ふじざくら祭で『にじいろのさかな』の劇に取り組むことが分かる。
思	声掛けに合わせて布を小さく振ったり大きく振ったりすることができる。
学	友達と協力することを意識し、布を持ち続け、ダンスを踊ろうとしている。

## 【今後の授業実践に向けて 納得解 最適解】

- 授業づくりに向け、国語算数の視点からも実態把握をすることが必要。
- 選んだことが何に繋がっているか先の見通しがもてない。日常生活の中でどのように選んでいるか観察する。
- 右ばかりの選択、物理的な行動や心理的な思考パターンの両方を指す可能性がある。（左に座っていて前に出て選ぶ時は、左を選ぶなど）意識して授業づくりを行う。
- 何を選べるか、どこまで選べるか、どのように見ているかなど提示の仕方や選択肢の位置を統一する。
- 分かりやすい選択肢を設定。児童に合わせた伝え方（文字、図、絵、実物など）で視覚的に分かるように提示する。
- 選んだことを意味付けしていく。言葉と体感が結びつく経験や成功体験を重ねることで選ぶことの理解が進む。

# 集団討議による考察

## ①成果

- ・ 右を選びがちな児童は右利きである。
- ・ 上下左右を入れ替えたりして、決まった位置のものを選んでいいのか確認するようにしたところ、左右では右、上下では上を選びがちなことが分かった。
- ・ ちびまるこちゃんやアンパンマン等、好きなことはしっかり選ぶことができている。
- ・ 選挙の学習では、『草取りと絵本』『マラソンと動画』など、極端な内容を設定して投票を行った。（3回目以降は、公約を聞いて人の写真と名前を選択するようになったのでそこが分かっているかどうかという点も関係ある。）1回目の投票では、両方に○をつけてしまった。2回目の投票でも同様。3回目の投票では、シールを貼り、右側を選択していた。

## ②課題

- ・ 変えても右側ばかり選ぶ場合は、本人がよく分かっていないことを聞かれているときであ位置をり、興味のあることや分かっていることは正しく選択できることが多い。
- ・ 気持ちが安定している状況で行えなかったため、確実な結果としては得られていない。



①

<p>ど う が</p> 	<p>え ほ ん</p> 

投票用紙「小学部」

やりたいことに○をつけてください。

③

<p>み む ら</p> 	<p>こ ん の</p> 

投票用紙「小学部」

リーダーになってほしいひとに○をつけてください。

②

<p>お か も と</p> 	<p>こ ん の</p> 

投票用紙「小学部」

リーダーになってほしいひとに○をつけてください。

## 議題

全体を通して「教科力の向上」についての気付き  
～生活単元グループの報告を受けて～

## メンバー

生活グループ  
理社グループ

## 良いところ

### 教材

絵本の読み聞かせは児童にとって言葉に触れるよい機会になっている

「絵本」や「パワポ」であらすじを紹介することで指導にとって親しみやすいものとなっている。

大きい小さいを、矢印やイラスト、人の動きで表現することで、理解しやすくなった。

## 実態把握

選択について、実態把握をし、実態に合わせて丁寧に授業に取り組んでいる。

選択という課題を見出し、継続して改善に取り組む意識を感じた。

## 指導の工夫

日常の中の選び方を観察し次の単元の授業づくりで工夫されている。

劇遊びを通して表現することの楽しさや喜びを体験することができる。

個の活動ではなく、友達と一緒にいる活動を設定することで、相手を意識した動きや関わりが見られた。

全体活動と個別活動をバランスよく取り入れている効果で、より目標達成を目指せると感じた。

振り返りの選択肢を用意しまとめとして理解度を図っていた

## 課題等

### 学習のつながり

選択は難しい課題であるが、「選ぶ」経験を積むことと理解力が高まることで意味が分かるようになるのではないかと

選ぶということについて、選挙の学習にもつながっていく。高等部の自己選択にもつながっていく。小～高への学習の系統性がある。学習経験を整理していくことが必要。

### 授業づくり

選択させること一つ取っても児童の得意なこと、何が好きでどんな遊びをしているかなど日常の様子や児童の思いを活かせる授業づくりや、児童の実態に応じた学習の手立てを工夫していくことの大切さを感じた。

児童の実態によっては、イラストや記号を見て、動きを表現するのは難しい。模倣や空間認知力が求められる。

## 議題

全体を通して「言語能力の向上」についての気付き  
～生活単元グループの報告を受けて～

メンバー  
生活グループ  
理社グループ

## 良いところ

### 日常の観察

教員側が左右、選択のバリエーションを想定しているから、その時の児童の反応に対応している。

### 教材の工夫

毎時間絵本の読み聞かせを継続して行うことで、物語や言葉の理解が繋がる。劇として身体を動かして表現することで定着に繋がる。

大小を身体で表現しつつイラストや言葉も用いて行っていた

### 友達と協働

教師と一緒に動きを確認することで理解できた児童が、動けない友達と一緒に活動する中でリードしたり言葉で伝えたりできるようになったこと

## 課題等

### 言語能力をのばすために

実態や授業のねらいにもよるが、授業の振り返り等で本時の感想を言葉で発表したりイラストから選択したりしてもよいのではないか

児童が必然的に自分の気持ちを伝えたいと思うような問いを設定する。

一人一人が劇の発表を通してできるようになった喜びや、分かったという充実感や達成感課題等を友達同士選択肢や言葉で確認できるとよい

## 動きと言葉の一致

「大きい」「小さい」を動作と一緒に学ぶことが大切だと感じた。

見る、聞くに加え、体を使って学ぶことで抽象的な言葉（大きい・小さいなど）の理解が深まる良い例だった。

動きと言葉がつながることで、その言葉が身に付き言葉の世界を広げられる。

「大きい」「小さい」を自分が動いて体験することで言葉の理解が深まると思う

言葉の知識とともに、体で表現し体感することも大切だと思う

選択したものは動作を付けるなど、選択に興味付けをするとよい

## 動きを意味付ける

動きと言葉がつながることで、その言葉が身に付き、言葉の世界を広げられる

選んだことを意味付けしていくことで、言語能力の向上につながるよう感じる

### 3 成果と課題

#### [成果]

- ・手づくり絵本の読み聞かせは、大まかな劇の内容や役割を捉えさせやすく、繰り返し読み聞かせることで、自分の登場場面や役割が分かった。
- ・授業の前に自分の登場場面を確認したり、振り返りの選択肢を設けて、その日の授業の理解度を図ったりしながら活動を繰り返すことで、学習の定着が見られた。
- ・提示の順番や位置を変えても同じ位置の物を選んでしまう児童について、日常生活の観察や、国語、算数での実態把握など再確認することの大切さが分かり、授業改善するきっかけになった。
- ・『提示の順番や位置を変えたところで、同じ位置の物を選んでしなう児童はどのような学習をすれば良いか』という議題に対し、「選択する」ことに視点を当てた討議では、生活の流れの中で選ぶことを経験していく段階の小学部から、経験の積み重ねを通して見通しをもち選ぶことの意味を理解していく中学部を経て、高等部段階では、物事を自分で考え判断する力の定着を図っていくことが大切であることが挙げられた。「選択する」こと一つ取り上げても、生活年齢や発達段階に合わせて活動の難易度を上げた授業づくりをしていくことで、従来の教科の積み重ねではなく、子どもの生活の流れに基づいた一連の学習活動を組織的に体験していくことの繋がりが分かった。
- ・単元段階表のすべての項目について、段階を記入し、計画を立てる際に段階表の左側に着目し、指導内容のバランスを考慮することができた。
- ・大小の動きを表すイラストや前後を表す矢印を手掛かりに実際に行動する活動を、教師とペアになり確認仕直したことで、抽象的な言葉と動きを一致できた児童が、友達を言葉や動きでリードする様子が見られるようになった。多くの児童が、徐々に視覚的な手立てを必要としなくなった。

## [課題]

- ・児童の実態によっては、認知面や心理面など、様々な状況を想定しながら、「右しか選ばない」で済ませるのではなく、右しか選ばないのは何故か、どうしたら選べるようになるのか、実態把握や日常の観察をもとに学習環境の整備、教材の提示の仕方などを工夫していく。
- ・生活単元学習における教科の力は、各教科の知識、技能、態度を日常生活の具体的な場面で実践的に活用し、自立や社会参加に必要な力（生きる力）を総合的に身に付けていくことにある。授業づくりの際には、この学習が卒業後の何に繋がっているのかを把握し、教師間で、各教科と横断的な指導をしていくことの共通理解を図れるとよい。
- ・教師と子どもで一緒に活動することを通して、適切な言葉掛けや動きに意味付けし、友だちと一緒に行動を設定することで、相手を意識した動きや言葉を介した関わりを楽しめるような授業づくりを目指す。そのためには、言語指導における基本的な技術が必要になる。
- ・指導内容及び目標の段階一覧と指導計画について確認することで、各学部の授業内容や取扱いについて話題になり、小・中・高等部までの学習の積み重ねと系統性を考えるきっかけになった。今後、指導計画などを見て、学習経験や課題などを整理したり、取扱いについて共通確認を図っていくことが必要である。